

令和6年度 京都府立洛水高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標))	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
すべての生徒が輝ける学校 (一人一人の可能性を最大限に引き出す学校) ○校是 「自主・自律・挑戦」 ○教育目標 自らを律し、学び、考え、行動できる人間を育成する。 ○スクール・ミッション(社会的役割) 一人ひとりの進路希望に対応した教育活動を実践する普通科を設置する高校として、課題発見能力と確かな学力を身に付けることによって、自らの意思で自らを高め、新しいことに挑戦する人材を育成する。 1 「学びに向かう力」を重要視し一人ひとりの確かな学力を育成する。 2 多様性を尊重し、他者と協働して様々な課題解決に向けて挑戦できる力を育成する。 3 豊かな人間性を備え、積極的に社会に参画できる力を育成する。 すべての生徒が輝ける学校 一人一人の可能性を最大限に引き出し、進路を決定し、卒業させる。	1 成果 (1)1年生のセカンドラーニング(放課後実施の国・数・英の学び直し)等の実施により、生徒の基礎学力や学習意欲の向上、欠席・遅刻の減少等の成果が得られた。 (2)特別な支援が必要な生徒に対し、出身中学校や地域支援センター、スーパーサポートセンター等の関係機関と連携し、生徒が抱える困難や課題に向き合い、生徒の成長を支える支援を粘り強く実践するとともに、支援に関するノウハウを構築できた。 (3)洛水式キャリア教育を中心に、地域と連携・協働した学びを推進することにより、生徒に将来展望を持たせ、地元企業への就職に繋げることができた。 (4)全国大会出場、京都府大会ベスト8入賞等、部活動の活躍が学校の活性化に繋がった。また、部活動部員や希望者等による地域清掃活動を計画的に実施し、地域社会に貢献することができた。 (5)通学時の巡回指導等を計画的に実施し、自転車乗車マナー等の向上に繋げることができた。 (6) 系統的・計画的に人権教育を推進できた。 2 課題 (1)登下校時の自転車事故増加に伴い、自転車事故の防止に努める必要がある。 (2)生徒の現状を踏まえた授業や評価、支援等の在り方について研究し、基礎学力の定着等を図る必要がある。 (3)生徒の規範意識を高め、基本的生活習慣や身だしなみ等、社会人として必要な常識やマナー等の向上を図る必要がある。	1 危機管理の徹底 危機管理の徹底により、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切にし、健康で安全な生活を送ることができる意識・態度・実践的行動力を育成する。(自殺、いじめ、薬物乱用、教育活動中の事故、登下校時の交通事故等の防止) 2 人権教育の推進 多様性を尊重する人権教育を推進し、差別や偏見を許さない意識・態度・実践的行動力を育成する。 3 希望進路の実現に向けた基礎学力の定着 (1)確かな学力を身に付けるため、少人数授業や習熟度授業、セカンドラーニング(1・2年生を対象とした放課後の学び直し)の充実など、個に応じた学習活動を効果的に展開し、一人ひとりの希望進路の実現を図る。 (2)ICTや外部人材、フィールドワーク等を効果的に活用した分かる授業、魅力ある授業づくりを推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 (3)生徒の現状を踏まえた各科目の指導計画や内容、評価、支援等について研究・実践を進める。 4 生徒支援の充実 (1)支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー、関係機関等と連携し、生徒が抱える困難や課題に向き合い、生徒の成長と発達を組織的に支援する。 (2)規範意識を高めるとともに、欠席・遅刻の減少等、基本的生活習慣の確立を目指した粘り強い支援を行う。 5 洛水式キャリア教育の推進 自己理解・他者理解を深めるとともに、社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力を育成することを通してキャリア発達を促す。 6 特別活動、部活動の充実 特別活動、部活動を充実させ、生徒の自己有用感を高めるとともに、学校生活の充実や学校の活性化を図る。 7 広報活動の充実 広報活動を充実させ、地域や中学生及びその保護者等へ、洛水高校の魅力を伝える。

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	基礎学力の充実	基礎学力向上をめざし、ICT機器のさらなる有効活用を行う。併せて授業規律の確保、欠席者・遅刻者の減少および成績不振生徒に対する指導を充実させる。	学年部・教科との連携により、授業規律を確保に取り組む。 またICT機器の有効活用の機会を増やして生徒が積極的に学習に取り組める環境を醸成し基礎学力の向上を図る。 学年部や生徒指導部と連携し、朝の遅刻が減少するように指導を行う。授業の遅刻・欠課過多者については、学年部・教科担当者との連絡を密にし、出席不良による単位不認定とならないよう指導を行う。 教科における基礎補充の実施や担任への成績資料の提供等を通じて成績不振者への指導を行うとともに「セカンドラーニング(学び直し)」についても学年部・教科等と連携して実施する。	4	3	3 学年部・教科との連携により、授業規律の確保に取り組むことができ、授業評価アンケート結果からも各先生が授業規律に取り組んでいることが確認できた。 『学習指導と学習評価について』の校内研修を実施して、観点別評価を生徒のPDCAサイクルに活かすための契機を設けた。 ICTの活用においては、校内ミニDX研修がICTの活用の苦手感の改善の一助となった。今後もICT機器の特徴である情報の集約と共有化を指導と評価の一体化に活かしていきたい。 1・2年生のセカンドラーニング教室を全校体制で実施し、一定の成果が得られた。問題点等も検証し次年度の新入生に活用できるようにしていきたい。 夏季休業明けの面談週間が生徒の状況確認に有効に機能した。 教育課程検討会議を通じて、現行の教育課程についての課題等を集約し、令和8年度入学生から、より本校の特色を反映した教育課程について検討している。 人権学習においては、外部人材の積極的な活用により、3年間を見通した人権計画が実施できた。 図書館の貸出冊数については大きな変化はないものの図書館を大切な居場所として利用している生徒が一定数いる。今後も使いやすさと居心地の良い図書館を目指したい。
	教育課程	特色ある学校づくりに向けて、新教育課程を適切進めていくとともに、改善点の検証も行う。	新教育課程の実施による新しい科目がスタートするため、教科と連携し、3年間を見通した授業の充実を図る。実施した課程においては分掌・教科等と連携して状況を把握し改善点の検証も行う。	3		
		年間授業計画に基づいた教育課程の適切な実施と指導と評価の改善を行う。	年度当初の授業で「シラバス」を生徒に配布して授業内容や評価の観点等を伝える。全学年においてタブレット端末を使用するため、ICT活用に特化した研修を実施し「ICT機器を用いた効果的な授業」を推進する。	3		
	人権教育	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にした教育の推進を図る。	人権教育について工夫・改善に努めるとともに、3年間を見通した人権学習を計画して実施する。	4	4	
	図書館運営	図書館教育を通して生徒の教養の充実を図る。	図書館利用指導・読書指導の充実を図る。そのために、教科との連携、生徒の委員会活動・部活動との催事共催等を推進する。	4	4	
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	身だしなみ指導、授業規律への指導等を全教職員で組織的に行えるよう体制づくりを整え、指導に当たる。生徒の小さな変化に気づき、コミュニケーションをとることを大切にし、生徒の問題行動発生時の未然防止に務める。	3	3	3 服装の身だしなみ指導について、登校時に多くの教員で挨拶と共に声掛けを行い、コミュニケーションをとることに務めた。授業規律確立週間を3回設け、生徒の意識を高めるよう指導した。 遅刻・欠課について、学年部と連携し指導カードを活用し生徒への声掛けや面談を行い減少に努めた。 警察、PTA、地域の方々との連携し交通安全教室、校外自転車指導、校外パトロールを実施した。また、自転車事故等に適切に対応できる生徒の増加が見られた。 生徒会を中心に文化祭や体育祭を企画運営し、成果を上げた。また、朝の交通安全指導や校外清掃に多くの生徒が協力した。
		交通安全指導の強化	警察、PTA等と連携した交通安全教室及び登校指導等の実施により、交通事故の防止と自転車乗車マナーの向上を図る。また事故発生時に適切な対応ができるよう指導を行う。	3		
	特別活動	自主・自律の伸長	生徒会活動及び部活動の加入率の上昇を図る。学校祭を始めとした特別活動等において、生徒の自発的な計画・運営により活性化を図る。	4	4	
進路指導部	進路指導	希望進路100%の実現を目指し、支援の充実を図る	進路ガイダンス・キャンパスツアーを中心に、進路意識向上のため取組を充実させ、進路意識を高める。	3	3	3 進路意識向上を目指した取組の充実については、学年毎にガイダンスなどを中心に進路意識を高める活動を行った。3年生は、担任と連携をとり、個別に丁寧に指導していくことで、就職については4月当初から希望していた生徒は全員内定をいただくことができた。 家庭・生徒との連携強化については、保護者説明会を中心に連携強化に努めた。今年度も事務部と連携し、奨学金のガイダンスを実施した。説明会参加保護者にはとても良い機会となった。 学習習慣の定着については、進学に向けた取組をアドバンスコースや大学進学希望者を中心に取組を進めた。個別指導・タブレットを活用した学習などを実施した。学校で行った取り組みを、家庭で一人でも行える形へ移行していきたい。
			多様な入試や就職試験に対応できるように、進学補習・就職や面接の対策講座等を開講し、希望進路実現のための支援を計画的に行う。	3		
	情報の発信	多様で変化する情報の整理と的確な情報の提供	各学校や就職の動向・現状を把握し、生徒への情報提供が的確にできるよう努める。また、保護者・担任・各分掌との連携強化に努める。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない									
分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題		
保健部	健康安全教育	健康診断の教育的活用と事後指導の徹底を図る。	生徒の健康状態を把握すると同時に、生徒自身に自らの健康状態を健康相談や毎月の保健室だよりなどで理解させ、基本的な生活習慣の確立を促す。	3	3	3	日々の健康観察や健康相談などで生徒自身に自らの健康状態を理解させ、基本的な生活習慣の確立や感染症予防の啓発を行った。生徒の特性に合わせた支援方法を学年部の先生方と話し合い、スクールカウンセラーと情報を共有しながら進めることができた。外部の関係機関とも十分に連携が図れた。教職員研修についても、発達特性を持った生徒の理解と支援方法についての学びを深めることができた。今後も生徒への効果的な支援方法を考えていく必要がある。委員会活動が少ないのが課題であるが、文化祭での点検活動等生徒会と連携しながら行うことができた。今後もゴミの分別意識含め、清潔で落ち着いた学習環境を整える必要がある。		
		生徒の心身の健康保持と安全の確保に努める。	保健委員会において保健だより等の作成を行う。また、登下校時の交通事故等の防止を含め、自ら健康・安全管理ができる姿勢を養うとともに自主的な活動を支援する。 教育相談・特別支援教育の充実と支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの連携を深める。また、必要に応じて外部の支援機関にも繋ぎ、生徒の成長と発達を支える働きかけを行う。	2	3				
		校内美化の活動を推進し、環境に対する生徒の意識向上を図る。	ゴミの分別意識を高めるとともに、日々の清掃活動や環境委員会の活動を充実させ、清潔で落ち着いた学習環境を作る。	3	3				
総務広報部	洛水式キャリア教育の推進	洛水式キャリア教育を推進することで、人間性を高め、社会で生きる力を育成する。	1年生に対して、他者との関わりを学び、探究学習に対して自ら考え、自分の意見をまとめ、発信する力を育成し、洛水式キャリア教育の企画推進に努める。 2年生に対して、プロフェッショナルインタビューやインターンシップを中心とした洛水式キャリア教育の企画推進に努める。	3	3	3	総合的な探究の時間について、各学年と総探担当者が連携を図り、充実した取組を実施することができた。 今年度からさくら連絡網を導入することによって、在校生や保護者等への発信が活発になり、さくら連絡網とホームページ合計の発信数は昨年度に比べ約30%増加した。学校説明会では在校生出演の動画を放映するなど、新しい取組を行うことができた。 一人一台端末の整備において、端末データやMicrosoft365アカウントの管理表の作成を行い、年度ごとに必要なデータを調べられるものを作成した。また、生徒の端末についてのトラブルが起こった際の対応について、一定のマニュアルを作成し、スムーズな対応を図る準備を行うことができた。 本校PTAと連携を図り、各種行事サポートやPTAの広報誌を3部作成することができた。		
	広報活動の推進	学校の様々な取り組みや情報を発信し、地域社会に信頼される開かれた学校づくりに努める。	ホームページやさくら連絡網を活用し、特色のある授業、学校行事、部活動、生徒会やHR活動など本校の魅力を地域社会に発信する。 学校公開、説明会、部活動体験、個別相談会や中学校訪問、出前授業等を通して本校の魅力を発信し、中学生、保護者に選ばれる学校を目指す。	3	3				
	ICTの推進	ICT機材の整備、効果的なICTの積極的な活用の研究	一人一台端末の整備、生徒と教職員が安心して使えるICT環境の充実を図る。生徒の学習用端末に対してMicrosoft365アカウントの管理やApple ID の取得に対して全生徒が安心して使用できるようにサポートを行う。	3	3				
	PTAとの連携	組織の活性化を図り、本校と家庭との連携を図る。	文化教養講座、社会見学、交通安全指導、学校祭での取組等の行事等を通して、PTA活動の発展に寄与する。	3	3				
第一学年部	学習指導進路指導	・基礎学力の定着 ・学習に向かう姿勢の涵養 ・進路学習を通じた自己進路の探求	基礎学力はセカンドラーニングでの学びの内容を充実させ、学び直すことによって定着を図る。学習に向かう姿勢はベル着の徹底を行うことと机の中の整備を定期的に行い、学習環境を整えることで姿勢をつくっていく。進路については、総探やコース選択の時間を通じて進路に対する考えを深められるようにしていきたい。	2	3	3	教員が普段より生徒とのコミュニケーションをとることで、教員と生徒との人間関係をつくることができ、諸々の生徒指導事象に生かすことができた。時間管理については、遅刻証明書を発行し、登校時の遅刻に対して細やかな声掛けをすることができた。また、学年団で協力・連携を取り、学校行事や生徒指導事象が発生した際に、全員で対応することができた。 リーダー活動については年度当初に立てていた計画通りに行くことはできなかった。セカンドラーニングについては1学期は思うような形で実施することはできなかったが、2学期以降は希望制にすることで、良い雰囲気で行うことができた。時間を守る意識、学習環境の整備についてはさらに徹底をしていきたい。次年度に向けては生徒とのコミュニケーションを継続しながら、上記の課題を解消するとともに、生徒の成長を促せるような取り組みを行ってきたい。		
	基本的生活習慣の確立	・遅刻欠席を減らし、時間を守る意識を高める ・身の回りの整理整頓を常にしておく ・あいさつなど当たり前のことを当たり前にできるようにしていく	時間を守る意識は上記のベル着に加えて、遅刻証明書を発行し、遅刻欠席を減らすようにしていく。整理整頓についてはクリアブックを配布してプリント類の整理を促し、学習環境を整えやすいようにする。また、当たり前のことをできるようにしていくために重点目標を教員が率先して行っていく。加えて、リーダー活動を行い、朝のあいさつ運動や校外清掃活動など通じて生徒自身が他の生徒の模範となり、学校を引っ張っていける体制を整えていきたい。	2	3				

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第二学年部	学習指導 進路指導	生徒の力を最大限伸ばし、進路希望実現に向けての学力を身に付け、生涯に亘るキャリア教育を推進する。	学び直しを主とした学力向上に取り組む。 ロイロノート「課題カレンダー」を積極的に活用し、提出物を確実に出す習慣を身に付ける。 研修旅行・インターンシップを核とする特別活動の経験を通して自主性を高め、自己の在り方を考えさせ、よりよい進路実現の基礎をつくる。	3	3	3 学び直しを通して生徒の学力向上に励み、一定の成果を出すことができた。 面談の機会を多く設けることによって、生徒の現状把握に努めることができた。まだ進路を決定できていない生徒も、見通しを持つということの大切さについては理解することができた。 生徒は、教員の指示にしっかりと従えるようにはなった。自ら率先して行動をしたり、他に働きかけたりすることを次の課題とした。今後、社会に出ることを見越して指導していきたい。
	基本的生活習慣の確立	自主・自律の精神に則り、自己を高めていく。	遅刻欠席の減少に努め、生徒指導においては、正しさに加えて納得感のある指導を行うことによって、生徒の内面に迫り成長を促す。 リーダー研修会を通じて、リーダーが率先して行動するで、ベル着では時間を守る意識を、行事では積極的に仲間と協力して取り組む力を養う。	3	3	
第三学年部	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立を促し、自立した社会人となるための自覚を持たせる。	挨拶の励行、遅刻・欠席の防止、提出期限を守らせる指導を継続的・段階的に行う。とりわけ社会における時間厳守の重要性を理解し、習慣化させる。 日常の学校生活や就職・面接指導などの進路指導を通して、社会人となるにふさわしい身だしなみや態度を身に付けさせる。	3	3	3 社会における規律、時間厳守の重要性を示し、それらが習慣化した生活を送る大切さを訴え、継続して指導を行った。多くの生徒が定着することができた。一部の生徒ではあるが、欠席や遅刻過多、身だしなみ改善に向けて事細かな指導を行ったが、十分な防止効果は得られなかった。文化祭や体育祭などの自主活動の機会を活かし、仲間と協力して積極的に取り組み、自主性の大きな成長を図ることができた。 進路については、進路指導部および関わってくださった多くの方のきめ細やかな指導の下、殆どの生徒が自ら納得できる就職先・進学先を選ぶことができた。就職、専門学校、国公立大学、私立大学と自らの進路希望に向けて取り組むことができた。なお、進学については、年々総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者が増えている。今年度は、一般受験での合格も複数人おり、目標を高く持つ生徒もいた。
	進路・学習指導	進路の実現に向けて計画的な学習に取り組ませ、自らの価値を高め学力の向上を図る。 それぞれの適性に応じた進路を選択し、主体的に進路実現に取り組む態度を育成する。	進路目標の実現に向けて、進路指導部と連携し分野別説明会や個別面談等を実施する。 提出物の期限遵守・就職セミナー・面接指導・志望理由書や小論文指導・総合型選抜対策など、進路指導部と連携し生徒・保護者のニーズに応じた指導を行う。また、進学補習や学力補充等の充実を図るとともにオープンキャンパスなどに積極的に参加させるなど、自分に合った進路先を見つける指導の充実を図る。	4	4	
事務部	施設・設備管理	学習環境の整備 設備・備品等の改善	安心・安全な学校づくりのため、施設担当者・技術職員を中心に施設設備の点検を実施する。 また、関係部署と連携し、最適な学習環境の整備を図る。 長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。	3	3	3 学校施設の危険箇所等については、定期的な点検の上、早急に対応できた。また、食堂内の空調機の設置及び4階渡り廊下の改修工事を行い、施設環境の改善を図ることができた。しかしながら施設に関しては経年劣化の目立つなどの懸念事項も多くあるため、引き続き長期的な視野に立ち、安全安心を第一に学習環境の整備に努めたい。 修学支援関係においては、様々な制度の周知を図ることができたが、より分かりやすい周知方法について、検討していきたい。 予算執行に関しては、昨今の経済事情から非常に厳しい状況である中、教職員と連携し、より効果的な執行に務めた。
	修学支援	安心した教育機会の保障のための援護制度の周知	各種援護制度について周知方法の工夫をし、分かりやすく丁寧な対応を行うことにより、生徒・保護者の経済的不安を軽減する。	3	3	
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	分掌・教科と連携し、限られた予算の中での効果的な予算執行に務める。 職員相互チェック・確認体制の定着化を計る。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語科	教科指導	授業を大切にさせる取組	毎時間の授業に必要な教材を確実に準備させるとともに、授業外の予習・復習に取り組ませることができるような課題の設定に取り組む。	3	3	3 国語科全体で生徒が教材を持ってきたかどうかのチェック、定期的な漢字・語句の意味小テストなどを行ったので、基本的な授業規律の確保や語彙力の定着を図ることができた。さらにセカンドラーニング・考查前補習を積極的に行うことができた。授業外の予習・復習に取り組ませる課題の設定ができなかった。
		語彙力・漢字力を身に付けさせる取組	全学年を通じて語句の意味・漢字の小テストを継続的に実施し、基礎的な漢字を確実に身に付けさせる。さらに、一・二年生においてはセカンドラーニングでも基礎的な語彙力・漢字力を養う。	4	4	
		主体的に学習に取り組ませる取組	国語を学ぶ意義を理解させ、授業の内外を問わず主体的に学習に取り組む態度を養う。	3	3	
地歴公民科	教科指導	社会全般の知識の定着	小・中学校からの学び直しを意識し、基礎的な知識や用語を身につけさせる。そのために、小テストや復習を授業内で実施し、ICT機器や写真資料などを活用して、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。教科書の内容をしっかりと理解させることを心がけ、教える内容を精選する。	3	3	3 各教科担当者が授業内容を精選し、生徒の合わせた授業を展開することができた。ICTは、パワーポイントでの授業や、ロイロノートでの課題の提出、視覚教材の導入等、様々な場面で利用することができた。授業内で課題を設定し、それを評価対象とすることで、授業に対する集中力を保つことができた。
		社会参画への意識の向上	授業で得た知識を使って、現代社会の諸問題について読み解く視点を取得させる。そのために授業内で問いを設定し、自分の意見を考えさせる。社会参画の一歩となる主権者教育を充実させる。	3	3	
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業時の態度や学習ルールが守れるように声かけを続けていく。また、授業への出席を第一とし、授業での活動を評価に反映させる。	3	3	
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	授業時間ごとに目標設定を行い、集中して授業に取り組める環境を作る。	3	2	3 端末の使い方について、メリハリをつけて使用するなど授業に集中して取り組む環境を作ることができた。 学び直しについては、現在困り感を感じている生徒が多く、義務教育の範囲から取り組むことができた。しかし、小・中学校の内容に前向きに取り組む生徒が少なく、後半は真の学び直しではなく、授業の範囲での補充になってしまっていた。 個別最適に授業内容を考え、多くは基礎基本から取り組んだが、数名は難易度の高い内容にも耐えられる生徒もおり、個別に希望進路実現に向けて取り組ませることができた。
			学び直しの学習を取り入れ、年間を通して基礎学力の定着を目指す。積極的に家庭学習を行えるよう、計画的に課題やノートを提出させる。	2		
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別授業では、講座に応じて学習する内容・進度などを工夫することにより、入試にも対応できる学力の向上を目指す。また、入試に数学が必要な生徒が少ない現状、個別に対応することで希望進路実現を目指す。	3	3	
理科	教科指導	「学びに向かう力」を重視し、確かな学力の育成	学力の三要素の一つである「学びに向かう力」を重視し、確かな学力を育成する。そのために、授業支援アプリを積極的に活用し、日々の学習のポートフォリオの作成やパフォーマンス課題など多様な評価を実現する。	3	3	3 今年度は、定期考査前の放課後のセカンドラーニングを実施することができた。また、授業支援アプリを積極的に活用し、日々の学習のポートフォリオを作成することができた。また、パフォーマンス課題等も積極的に取り入れ生徒の学びを多様な観点から評価することができた。
		学び直しの充実	高等学校への学びにスムーズに接続するために、授業内での学び直しや放課後のセカンドラーニングを設定する。	3	3	

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、仲間と協力して積極的に活動する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	種目によって活動するメンバーが変わっても、仲間と協力し合い授業を作るという意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。指導したことに對しての達成度合いをフィードバックすることで、より意欲的に取り組む態度の向上を目指す。	4	4	3 本時の課題や、先の見通しを明確にし主体的に取り組む力の育成に力を入れた。また、仲間と協力し安全に活動することができるようにルールを徹底した。
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に関する知識を身につけ、調査・研究により健康に対する理解を深め、自らの意見を発表する能力を身に付けさせる。フィールドワークや演習など、体験を通じて学ぶ機会を設け、興味を持つきっかけになる授業を展開する。	3	3	
芸術科	教科指導	様々な表現・鑑賞活動を通して、多様な視点を身につけることで、自己や他者を理解しようとする心を育てる。	生徒の興味や関心に応じて、幅広い内容の表現・鑑賞活動を取り扱う。ICT機器や外部講師の活用、他教科との連携授業なども必要に応じて行う。	3	3	3 芸術科内での合同授業や、高大連携授業、校外学習等を実施することができた。ICT機器を必要に応じて活用できた。個別指導を充実させ、授業に前向きに取り組める環境づくりに努めた。他教科との連携授業は実施できなかった。
		授業規律を守らせ、落ち着いて授業に臨める環境を整える。	授業に臨むマナーを守らせる。多様な特性を持つ生徒に対する個別最適な授業を目指す。	3	3	
英語科	教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。 そのために、中学既習事項の学び直しを軸に、授業に前向きに取り組む、主体的に学習する姿勢を養う。	3	3	3 学び直しを授業内で継続して行い、基礎学力の定着を行った。また、パフォーマンステストなどを行い生徒のアウトプットを回復して行った。 2年人文探究の授業では、オンライン国際交流や伏見稲荷外国人インタビューなど実際に英語を使う場面を多く提供できた。 どの学年においても、学力に差があり、個別的な指導が必要である。
		進路目標の実現にむけた学力の伸長と向上	進路希望の実現、および卒業後の進路において必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸張を図る。 またその定着を目指して授業および補習などを通じて学習する姿勢を育む。	2	2	
家庭科	教科指導	授業を大切にする姿勢を育成する。	授業規律を確保する。 授業の理解度を確認するため、課題の提出を徹底する。 基礎学力の定着を図るため、確認の小テストなどを行う。	2	2	3 定期的なノートや課題の提出や、小テストの実施により知識の定着を図るように努めた。ICTを活用したり、視聴覚教材を多く取り入れることで学習内容と実生活を結びつけて考えさせるように工夫した。 2、3年では実習を多く取り入れ、生徒の興味・関心を高めることができた。また、社会人講師の活用により、幅広い視野を持たせることができた。
		主体的に生活を創造する能力と課題を解決する力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容をできるだけ取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた課題解決力をつけるために、実践的・体験的な活動を取り入れて総合的に学習させる。	3	3	
情報・商業科	教科指導	全ての授業を大切に、時間を有効に使う態度を育成する。PCやタブレット等を利用しICT教育教材を利用できる能力を身につける。	授業のベル開始をおこない、毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、「欠課届」提出の徹底を行う。	3	3	3 情報通信技術を用いコミュニケーション能力の向上を目指していき、将来の進路実現のため、各検定試験にも対応した実習を充実させ、将来の資格試験取得について意欲を高めることができた。 情報モラルの学習については、講義形式の学習に加え、インターネットを利用した調べ学習やプレゼンテーションソフトを利用したグループ発表を実施することができた。 ネットワークを利用してタブレットとPCを使用したICT学習の展開を行うことができた。
			授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。	3		
		ビジネス社会・ICT社会に参画するためのICT機器活用能力の育成を推進する。プログラミング的思考を身につける。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。	3	3	
			情報モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。 個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。	3		
学校関係者評価委員会による評価			○生徒が日々の学びや行事、部活動を通して、充実感と達成感を得ることができている。今後も更に工夫充実させてもらいたい。 ○洛水らしい取り組みが定着してきている。特にインターンシップなどの将来を見据えた取り組みが就職に繋がっている。地域との連携も進んでおり、推進させて欲しい。 ○学校評価アンケートの肯定率が低い項目について、学校は工夫して取り組まれている。			
次年度に向けた改善の方向性			○生徒一人ひとりを大切に、日頃からきめ細やかな指導を継続して行う。支援が必要な生徒に対しては、関係機関と連携しながらチーム学校の実践を充実させる。 ○「洛水式キャリア教育」について、生徒の実態や社会の状況等を見ながら更に充実させる。 ○日々の授業や学校生活を大切に、基礎学力の充実と、自ら学習に取り組む、協働しながら学ぶ力の育成を図る。 ○部活動の活性化や魅力ある学校行事の企画・運営を図り、学校生活を充実させ豊かな社会性の育成を図る。 ○生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣や身だしなみ指導等、社会人として必要な常識やマナーの向上を図る。 ○本校の教育活動、特色について、積極的に発信し、広報の充実を図る。また、地域と連携した取り組みの充実を図る。			